

じせつめぐり

消防署

火災・救急はダイヤル119番



消防の仕事をしている市の職員は189人います。この人たちは貴重な財産や命までも奪ってしまう恐ろしい火災から私たちを守るために消防本部、消防署、西分署、臨港分署、鷹岡分署、吉永分署、南分署、富士見台分署に分かれ仕事をしています。

また、急病人や、けが人が発生した時、尊い人命を守るためにピーポー、ピーポーとサイレンを鳴らし、かけつける救急活動も消防署で行っています。現在、消防車17台、救急車が3台あります。

このほか、地元の人々でつくっている「消防団」があります。消防団の数は25分団で、団員880人、消防車は28台あります。

昨年1年間(昭和56年1月～12月)

◇火災発生件数 118件

◇火災損害額 1億8,000万円

◇救急車出動回数 2,732回

消防署を見学して

富士南小4年

望月晃君

3月25日、親子市政教室に母と参加し消防署を見学しました。

消防車には色々な種類があることが分かりました。でも、救急車が少ないので、もう一台ぐらいあってもよいと思います。それから消防車も、大きなはしご車などよりも小型の車の方が、道のせまい富士市にあっていと思います。また富士市は工場が多いので、化学車も、もう少しほしいな。

でも、富士市がこんなに防災・防火に力をいれているとは知りませんでした。消防署や分署で働いているみなさん、がんばってください。ほくたちも防災・防火につとめます。

ぼくの夢わたしの夢

アナウンサーになりたいな



元吉原小六年
小野勝弥君

ぼくは、しっかり勉強して、テレビによくでてくるアナウンサーになりたいと思います。今、ぼくは、ぼくの町を、美しい星空と、さわやかな空気と、自然がいっぱいの緑の町にしたいと思っています。川や空がもっと、もっときれいになり、富士市が住みよい町になるよう、アナウンサーとしてテレビでうったえていきたいのです。これがぼくの夢です。

おそば屋さんになりたいな



元吉原小六年
堀内伴美さん

私の夢は、20歳までに調理師の資格を取って、おそば屋さんになる事です。なぜかと言うと、お父さんの知っているおそば屋さんで、とってもおいしいおそばをつくる店があります。そこのお店のそばは、とてもおいしいのでわたしは、一生懸命働いて、お店を建てて、日本一と言われるほどのおいしいおそばを作って大勢の人に食べさせたいです。



富士山クリーン作戦(昭和54年6月23日実施)には、約2万4,300人が参加し、成果として空かん69.1トン(個数にして約172万7,000個)が回収されました。

ところが1個当りの回収コスト(弁当代は別として)は約70円かかっています。空かんの投げ捨てが、いかに高くつくかという一つの事例です。

空かんは、貴重な資源として生まれかわります。ポイ捨てはやめましょう。

——進めよう ごみの減量・資源化——